



信州スキー遠征(野沢温泉スキー場)!



年を忘れた
3人衆
左から
67・75・69歳

表紙の写真をご覧いただいたように、2月初旬に昨年に続いて同じメンバー(75歳・69歳(私)・67歳)3人で信州にスキー遠征に行っていました。今年は日本で一番広いと言われている野沢温泉スキー場!

今年は、折角信州まで行くのだからせめて二日はゆっくり滑ろう!と言うことで、3泊4日の日程で行ってきました。行程は新幹線で京都まで行き、そこから敦賀まで移動し、北陸新幹線に乗り換えて飯山駅まで7時間の長旅でした。

三人の日頃の行いが良かった?おかげで、素晴らしい天気恵まれ、雪質も最高で、冒頭写真のスカイラインコースを滑っている時は、天空を滑っているような気持ちの良さでした。

左の二枚目の写真は、スキー場の頂上(毛無山)から撮った写真で、樹氷が付いた木々の間を滑っても良いエリアとなっています。ここは圧雪をしていないフカフカなエリアでして、ここをたくさんの外国人が歓声を上げながら滑っていました。私なんかこんなところを滑ったら、思うように滑れず木にぶつかってケガをするに違いありません!

その下の道路標識の写真はこのスキー場の名所となっているところです。右側の夏場の写真と比べてみれば一目瞭然で、私の手が届きそうなほど積雪があることがお分かりいただけるかと。それにしても、手が届くものですから、近くで見るとステッカーを張った跡などがあり、マナーの無いスキーヤーにがっかりです。

余談ですが、ここのスカイラインコースでリフト待ちをしていたら、目の前を見たことのある男性がニコニコしながら通ったので、しばらく誰かな?と思って見ていたら、俳優の「ムロツヨシ」さんでした。後で知ったのですが、このスキー場でドラマの撮影をしたとか・・・そんなこんな楽しいスキーツアーでした。さて、来年はどうなるか?(啓)



ツリーランと言われる、外人が非圧雪のパウダースノーを楽しむ林間コース



夏の写真です。高さの違いわかりますかね?



この山々の向こうは日本海

ムロツヨシさんに出会った、スカイラインコース



河野

みなさんこんにちは!今年の冬は正月早々例年になく積雪で山陽道が通行止めになり大混乱でしたね。我が家も東京の次男が車で帰って来ていて、丁度この日に東京に帰るとのこと、いつ山陽道が開通するかやきもきした次第です。平素道路に雪が積もることが少ない地域ですから、道路でスタックしてしまうのも仕方ないかもしれませんが、交通の大動脈で動けなくなると甚大な影響を及ぼしてしまうことがよく分かりました。弊社の作業車は安全のため12月末から2月までは冬用タイヤを装着しています。今年も積雪した道を走ったのは僅かしかなかったかもしれませんが、安全のためには必要なことと、この一件からも痛感しました。

さて、上の写真を見たら「また今年も信州にスキーをしに行ったな!」と思われた方も居られるかと。はい、今年も広いゲレンデで風を切る爽快感を求めて、今年も日本一広いと言われている長野県の野沢温泉スキー場に行ってきました。そのお話は後のページでご笑覧いただくとして、今回これまで一番インバウンドを実感して来ました。北陸新幹線を降りて、スキー場までのシャトルバスに乗り換えるのですが、そのバスの乗客のほとんどが外国人!車内で見渡すと日本人は私たちだけ・・・と驚くのはまだ早く、夕食の居酒屋のお客も私たち以外は外国人。そしてラーメンを食べに寄った店の料理人も白人男子にホール係は白人女子。しかも頼んだラーメンは外国人仕様でぬるい!!と驚きの連続でした。泊まった民宿のご主人に聞けば「野沢温泉の宿泊施設やお店の3割以上は外国人が買って経営している」とのこと。

ところで、何故こんなに外国人が日本のスキー場を求めてやって来るかと調べてみると、どうやら雪の質が外国に比べて良いようで、日本のパウダースノーはJAPANSNOWを略してJAPOW(ジャパウ)と呼ばれているそうです。今回もリフトや居酒屋で同席した外国人にカタコトの適当な英語で聞いてみると、概ね滞在期間は1週間程度で、ゆっくりとスキーを楽しんでいるようです。それに引き換え、今回三泊で行った私たちはまだまだ慌ただしい楽しみ方なんだと、彼らの楽しみ方を見て考えさせられます。働き方改革で休日は増えても、日本人の休日の楽しみ方改革はなかなか進みませんね。(啓)



久しぶりの

建物探訪(愛媛県伊予市立翠小学校)



伊予市立翠小学校

3月の上旬に松山の出張に併せて、愛媛県最古の木造校舎の見学に社長と二人で行ってきました。この伊予市にある翠小学校の校舎は昭和7年に建てられた校舎で、築95年の建物です。この木造校舎を生かそうと平成14年に3億8千万円の費用をかけて、「採光・断熱・耐震」改修を行っています。

左の写真を一見すると、普通の古い木造校舎に見えますが、白い窓は木製の断熱サッシ。冬季はペレットストーブで暖房、中間期は自然の風を取り入れる窓を採用し、暑い夏季はエアコンで冷房できる設備が整っています。

授業中にもかかわらず、快く見学を受け入れていただき、改めて古き良きものを生かす大事さを痛感させていただきました。このような思いを日頃の業務に生かしていきたいと思えます。(啓)

「住いの困った」は ゲインアンハウス 大竹店・廿日市店共に
フリーダイヤル0120-505-375 URL:<https://www.geinan-house.co.jp>
最後までお読みいただき有難うございました、次回は6月頃の予定です。(啓)
*尚、この「住まいる通信」がご不要の方はご一報願います。送付を停止いたします。

久しぶりのバスツアー！



毎度お世話になっている
佐々木観光のバス

小倉第一工場にて



TOTOミュージアムにて



TOTO MUSEUM
2026.01.16



楽しい小倉でフグの昼食

8年前の2017年に行ったマツダ防府工場見学バスツアー以後、コロナ禍で中止していたバスツアーを久しぶりに行いました。まずはお詫び申し上げなくてはならないのは、ご案内をお送りさせていただきましたら、本当に定員の倍ほどのお客様からお申し込みをいただき、たくさんのお客様にお断りをさせていただきましたこと、この紙面で誠に恐縮ですが、心よりお詫び申し上げます。折角お申込みいただきましたのに申し訳ございませんでした。

さて、バスツアーのことですが、今回は住宅設備機器メーカーTOTOさんの便器を製造している小倉第一工場と、TOTOさんのこれまでの歴史やものづくりを伝えるTOTOミュージアムを見学させていただきました。

小倉工場に10時に着くようにするために、廿日市店をまだ暗い早朝6時に出発し、主なバス停や大竹駅などに寄って10時過ぎに到着。このバスツアーのために弊社担当の西川さんが広島から先入して待っていてくれました。まずは、西川さんから工場見学の概要の説明を受け、便器を作っている工場を見学。皆さん興味津々で見学の時間が短かったと少々不満気味で近くのTOTOミュージアムへ。TOTOの歴史から商品開発など盛りだくさんの内容で、こちらでも時間が足りなかったようでした。

そして、メインイベントお楽しみ割烹三幸でフグのランチコース。私は行ってないのでコメントはできませんが、行かれたお客様からはたいそう満足されたとお言葉をいただき、次回があれば是非私も行ってみたいものと羨ましく思っております。

そんなバスツアーのご紹介でした。来年度も行うとの事ですので、皆様のご参加心よりお待ちしております。(啓)



宮園市民センター

いきいき学級「2027年蛍光灯の廃止について」



1月22日に廿日市店の近くにある宮園市民センターで「2027年蛍光灯廃止について」を照明器具メーカーのオーデリックさんをお願いして話してもらいました。まだまだ住まいの中に蛍光灯が使われている方も多いかと思いますが、来年2027年で蛍光灯の製造が中止となります。その理由は、「人体に有害な水銀に関する水俣条約」において、蛍光灯の製造と輸出入を2027年末までに禁止することが合意されたからとのこと。

既にLEDの照明器具に替えられている方も多いかと思いますが、来年に向けて、LED照明器具の需要が一気に増えることで、品薄になったり、価格が高騰したりすることもあるとの事ですので、お早目のお取替えをお勧めします。

擁壁及びコンクリートの補修工事

近年コンクリート構造物や擁壁などの補修工事の依頼をいただくことが多くなりました。コンクリートブロック擁壁では経年劣化で目地が剥離して隙間ができてしまうと、そこから雨が降った際に雨水と一緒に地盤の土が流れ出たり、コンクリートブロックがずれてしまう恐れがあります。

また、コンクリート構造物では、ひび割れが発生するとそこから雨水が侵入し、内部の鉄筋が錆びることで膨張しコンクリートを破壊してしまう“爆裂”が発生してしまい、構造物の強度が著しく低下してしまう恐れがあります。

①擁壁ブロックの補修工事



着工前



目地等の
高圧洗浄



完工
きれいに仕上がりました



ブロックがずれないよう、しっかりと奥までモルタルを充填します

モルタル注入後
目地仕上げ

②コンクリートクラック補修(エポキシ樹脂自動低圧注入工法)

クラック幅5mm以内のひび割れに対して行う工法で、クラックに対して注入孔を取付、樹脂がクラックから出ないようにシールを行い低圧注入器具を用いて注入します。樹脂を充填させることで劣化を防ぎます。



クラック

着工前



エポキシ樹脂自動低圧注入



注入孔撤去、塗装後完工

2件の事例をご紹介しました。

②コンクリートクラック補修ではコンクリート構造物において5mm以上のクラックが発生している場合は、樹脂の充填だけではクラックの進行を止めることができませんので、さらなる対応の検討が必要となります。

クラックによる擁壁やコンクリートの劣化は止まることはなく、放置しておけば加速度的に進行し、補修できる状態を過ぎてしまうと、復旧が大変難しくなってしまいます。